

# 海外看護研修 韓国



**Tokiwa University & Daegu Catholic University  
College of Nursing**

**2024年3月10日(日) ~ 17日(日)**

## 研修日程表

	日付	地名	現地時間	予定
1	3/10 (日)	成田空港 集合	12:20	搭乗手続き、出国手続き
		成田空港 発	14:20	TW202 便
		大邱空港 着	16:50	着後、韓国入国手続き
		大邱カトリック大学看護学部寮泊		タクシー等で宿泊先へ移動
2	3/11 (月)	大邱カトリック大学看護学部	AM	歓迎セレモニー
			PM	英語でのコミュニケーション（自身および本学看護学部の紹介） 昼食：カフェテリア キャンパスツアー（St. Luka Campus） 歓迎ディナー（レストラン）
		大邱カトリック大学看護学部寮泊		
3	3/12 (火)	大邱カトリック大学看護学部	AM	韓国の医療制度と看護についての講義 BLS トレーニング
			PM	昼食：各自 病院訪問（DCMC）
		大邱カトリック大学看護学部寮泊		
4	3/13 (水)	大邱カトリック大学	AM	セミナー（韓国と日本の看護教育について）
			PM	昼食：カフェテリア キャンパスツアー（St. Justinus Campus）
		大邱カトリック大学看護学部寮泊		
5	3/14 (木)	大邱カトリック大学	AM	シミュレーションに基づく看護実践の授業の見学
			PM	昼食：各自 キャンパスツアー（Main Campus） 多職種連携教育プログラム（警察行政学部とともに）
		大邱カトリック大学看護学部寮泊		
6	3/15 (金)	大邱カトリック大学	AM	お別れセレモニー、等
		大邱カトリック大学看護学部ゲストルームチェックアウト	PM	昼食：ランチボックス 英語でのコミュニケーション（研修で学んだことについて英語で発表）
		エルディスリージェントホテル泊		
7	3/16 (土)	大邱市内観光		終日
		エルディスリージェントホテル泊		
	3/17 (日)	ホテルチェックアウト	7:00	タクシー等で大邱空港へ移動
		大邱空港発	10:50	出国手続き TW201 便
		成田空港着	13:20	成田空港着、入国・税関手続き、解散

## 海外看護研修を通して私が得たもの

看護学部看護学科 2年

- ・現地研修期間：2024年3月10日～3月17日
- ・研修受入大学：韓国 大邱 カトリック大学看護学部

### 1. 海外看護研修を通して私が得たもの

私が海外看護研修を通して得たものとして大きく5つ挙げる。

まず1つ目は言語が異なる相手とのコミュニケーション力である。共通言語である英語を使用し、相手の話している内容について単語を拾って理解し、相手に伝わりやすいように簡単な単語やジェスチャーを取り入れながらコミュニケーションをとることが出来るようになった。英語での会話が初めてだった為、初日は相手の話している内容を理解することが難しいと感じていたが、日を追うごとに理解し、どのようにすれば相手に自身の思いを伝えることが出来るのかを考えながら自ら率先して話し、質問をすることが出来るようになった。挨拶は基本的に韓国語で話すように心がけていた。相手と話すきっかけを作るために、事前学習で韓国語を学習したが、それ以外にも研修期間中に日常的に使うことが出来る韓国語を先生や生徒に聞き、さらに自身で調べて学習することで話すことが出来るようになった。そのような点から相手とのコミュニケーションをとる力に加えて、自身で研修での学びを深めようとする自己研鑽に励む力を得ることができたと考える。

2つ目は異文化について理解し、尊重していくための知識である。私は「異文化と看護」の授業において、人々の生活や保健行動に影響する文化的要因を理解し、看護職の役割や看護を行う上で必要な理論や方法を学習した。その授業での学びを活かし、病院見学では礼拝を行うことができる部屋が設置されている事や病院内に大聖堂があるということに注目して見学した。さらに病院内だけではなく、大邱の市内観光において多くの文化や宗教にふれ、シスターや先生方、市内観光を案内してくれたガイドの方の説明を聞き、歴史や宗教について建造物を見ながら、学習を深めることが出来た。このような学びは多様な視点や価値観の発見につながり、今後看護を行う上で必要である知識を身に付けることが出来たと考える。

3つ目はBLSトレーニングでの講義、演習における一次救命処置の技術である。授業において成人への心肺蘇生法やAEDの使用方法は学習していたため、復習をしながら演習に取り組んだ。使用している機械が学校のものとは異なり、心肺蘇生における深さ、リズム（速さ）が正しいかを確認しながら、実際の現場を想定してトレーニングを受けることが出来た。小児への心肺蘇生法の学習は初めてであったため、先生に教わりながら学習した。そのため今回の研修で自身のスキルアップにつなげることが出来たと考える。さらにBLSトレーニングで学習した技術は今後医療現場や日常生活において近くに倒れている人がいた際に役立つ技術（知識）であるため、演習に意欲的に取り組むことができたと考える。

4つ目は警察行政学部との多職種連携教育での学びである。メインキャンパスにおいて警察行政学部との連携教育プログラムに参加した。日本では医療職者間での多職種連携が行われているが、大邱カトリック大学では医療職者以外の警察行政学部とのプログラムが組み立てられており、今後現場でのスムーズなやり取りができるように良好な関係を築くことが目的とさ

れているということを学習した。連携教育の中では、看護学部と警察行政学部がお互いのイメージを出し合い、それについて意見交換を行うことで新たなイメージや考えをもつことができると感じた。さらにボードゲームなどで全員が一緒に考え、協力していくことで交流関係を深めることができ、今後の授業での話し合い活動を円滑に進めることが出来るということを実感することが出来た。日本には医療職者以外の人（学部学科）との多職種連携プログラムが行われていないため、私にとって新たな経験となり、この経験を日本における多職種連携やコミュニケーションにおいて活かし、今回の学習で得た知識と経験を多くの人に発信していきたいと考えた。

5つ目は何事にも挑戦しようとするチャレンジ精神及び自信である。海外という初めての場所と言葉が異なり、相手とコミュニケーションをとることさえも難しく、最初は不安が大きかった。しかし、日に日に自身の経験と学びが深まり、その経験と学びが自然と自信へと変わっていった。事前学習において相手に理解してもらいやすいように工夫し、自己紹介の内容とスライドを何度も改善した。その努力の結果もあり、自信をもってプレゼンテーションを行い、大勢の人の前でも最初のスライドと内容をアレンジして発表に意欲的に取り組むことが出来た。このようなことから自身で挑戦しようとするチャレンジ精神と自信を持つことが出来るようになったと考える。

## 2. 感想

今回の海外看護研修に参加して、上記に記載したようにたくさんの経験をし、多くの知識と技術を身に付けることが出来た。海外研修に参加したことで異文化にふれ、他の国の看護教育や医療についても学習するきっかけとなった。この研修で学んだことは今後看護師になった際に活かすことができ、自身の成長にもつなげることが出来たと考える。さらに今回の研修では経験と学びだけではなく、人と関わる中で人の温かみを感じる事が出来た。大邱カトリック大学の先生方、ボランティアの生徒の方々、常磐大学の先生方、市内観光をしてくださったガイドの方など出会ったすべての人が温かく、協力してくださっている事にありがたみを感じた。

今後の自身の目標として今回の研修で語学力が不足していると感じたため、共通言語である英語を学習していきたいと考えている。看護においてはシミュレーション教育を見学した際や看護教育について理解することが難しかった内容があったため、自身で授業の内容を復習し、今後の学修も意欲的に取り組んでいきたいと考える。さらに今後国際交流活動があった際にも参加して、今回の研修で養ったコミュニケーション力や自主性、チャレンジ精神などを活かして、様々なことに挑戦し、成長し続けていきたいと考えている。





BLS トレーニング



プレゼンテーション (自己紹介)



学生とのお昼ご飯 (最終日)

## 海外看護研修を通して私が得たもの

看護学部看護学科 2年

- ・現地研修期間：2024年3月10日～3月17日
- ・研修受入大学：韓国 大邱カトリック大学 看護学部

### 1. 海外看護研修を通して私が得たもの

私が海外看護研修を通して得たものは4つある。

1つ目は、日本と海外の医療の違いに気付くことができたことだ。特に、宗教に関する違いが印象に残っている。日本は無宗教と言われていたため、宗教を意識して生活することが殆どなかった。しかし、大邱カトリック大学はキリスト教の大学であったため、大学内や病院内に礼拝の場所が多くあった。病院訪問をさせていただいた際には、病棟内にも小さな礼拝堂があり、入院しても入院前の生活と変わらずに礼拝ができるような施設があることに気付いた。以前講義で、近年日本では外国人患者が増えていることにより、宗教に関する理解がないとトラブルが起きてしまう可能性があることがあったと学んだ。そのため、病院内にも礼拝ができる場所を作ったり、日本全体で宗教に関する理解を深めたりする必要があるのではないかと改めて考える機会となった。

2つ目は、日本と韓国の看護教育の類似点と相違点に気付くことができたことだ。類似点としては、看護教育のシステムだ。1年次に教養科目を、2年生で専門科目を学び、シナリオに基づいて看護を考えるなど、日本の看護教育に共通している部分が多かった。また、看護の勉強は大変だと話している学生も多く、韓国も日本も看護学生は多忙であることを実感した。一方、相違点としてはシミュレーション教育に力を入れていることだ。シミュレーション教育に力を入れている理由として、約1年ある日本の新人研修の期間が韓国では数ヶ月であることが挙げられていた。シミュレーションセンターの部屋を実際の病院のように器具を設置したり、機械を使ってバイタルサイン等を変化させ実際の患者に状況を少しでも近づけたりすることで、より充実した演習ができるため非常に素晴らしいと感じた。さらに、大学内に学生間で学びを共有するための教室や、学生が自由に演習できる教室があり、学生の学びに協力的な大学であると感じた。

3つ目は、人の温かさに気づくことができたことだ。今回の海外看護研修は、私にとって初めての海外の経験であった。韓国語も英語も殆ど話すことができないことや、今回の研修に参加する学生が2人しかいないということで不安が非常に多くあった。また、韓国人は歴史上、日本にあまり良いイメージを持っていないのではないかと不安もあった。しかし、研修先の先生方も学生も非常に温かく受け入れてくださった。年配の方の意見を聞く機会はなかったため実際の日本に対するイメージは分からないが、韓国の学生は日本のアニメや映画、音楽などに興味を持ってきていて、日本人と仲良くなりたいたい、日本のことをもっと知りたいと考えている学生が多かった。そのため、沢山話しかけてくれたことが非常に嬉しかった。

4つ目は、自分から積極的に話そうとする行動力が身についたことだ。今回の研修の共通言語は英語であったため、英語で会話をする機会が多かった。普段から英語に触れているわけではないため、流暢な英語は話すことは難しかった。しかし、コミュニケーションをとる上で必要なものは流暢な英語ではなく、相手と話したいと思う気持ちや、簡単な単語を繋げて会話しようとする意欲が非常に大切であると学んだ。また、人に話しかけることが非常に苦手であったが、人数が少ない研修だからこそ誰かに頼るのではなく、自分の思っていることを自分の言葉で積極的に伝えようとする行動力が身についたと考える。

以上の4点を得ることができ、海外看護研修は忘れられない経験となった。この経験を今後活かしていきたい。

## 2. 感想

短い期間ではあったものの非常に実りある海外看護研修であった。不安が多くある研修であったが、実際に参加してみると日本と海外の違いや人の温かさに気付くことができ、参加して本当に良かったと思う。また、100人以上の学生の前で英語で自己紹介や大学の説明をしたり、英語で韓国の医療やBLSの講義や演習を行ったり、韓国の病院に実際に行ってみたい、日本ではできないような経験が沢山できたことも良かった。これらの経験を通して、人前で話すことに対する自信や何事にも挑戦しようとする意欲を持てるようになったと考える。また、このような研修があったら参加してみたいと話していた韓国の学生が多くいた。そのため韓国の学生が常磐大学に来た際には、ボランティアとして積極的に参加したいと考えている。

また、今回の海外看護研修に参加することにより、外国語でコミュニケーションを取ることの難しさを痛感すると同時に、外国語の学習に対する意欲が向上した。今後も継続的に外国語を学習していきたい。さらに海外看護研修に限らず、今後も国際交流の機会に積極的に参加し、自分の視野を広げていきたい。

## 3. 写真



集合写真



シミュレーションセンターの見学



BLS(一次救命処置)の演習



学生の前での自己紹介